

研究主題

「世界に目を向け、命や人権の大切 さを実感させる平和教育の実践」

～青年海外協力隊の経験を生かし、クロスカリキュラムで
進める総合的な学習の時間を通して～



郡山市立行健小学校

教諭 林 美里

目 次

1	研究主題	P2
2	主題設定の趣旨	P2
(1)	自分自身の体験から	P2
(2)	日本国憲法、教育基本法、「生きる力」の基本方針から	P2
(3)	世界情勢と児童の実態から	P3
(4)	クロスカリキュラムで進める総合的な学習の時間について	P3
3	めざす児童像	P4
4	研究の見通し	P4
5	本研究に関する指導計画	P7
6	研究の実際	P8
(1)	クロスカリキュラムでの工夫	P8
	第4学年での実践	
①	世界に目を向け、他国の自然や文化に関心を持つための手立て	P8
	第6学年での実践	P15
①	世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じるための手立て	P18
②	平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけていこうとする意識を高めるための手立て	P32
(2)	日常生活での工夫	P36
①	世界に目を向けるための手立て	P36
②	平和への意識を高めるための手立て	P45
7	児童の変容	P48
8	研究の成果と課題	P58
9	参考資料	P60
10	本研究で使用、参考にした主な文献、資料	P80

1. 研究主題

「世界に目を向け、命や人権の大切さを実感させる平和教育の実践」

～ 青年海外協力隊の経験を生かし、クロスカリキュラムで進める総合的な学習の時間を通して ～

2. 主題設定の趣旨

(1) 自分自身の体験から

「ぼくの曾おじいちゃんは日本軍に殺された。」

これは、私が青年海外協力隊員として、ソロモン諸島の中・高等学校で教鞭をとっていたときに聞いた教え子の言葉である。

この言葉とともに、実際に、ソロモン諸島のあちらこちらに今も残る太平洋戦争の傷痕を見たとき、ソロモン海戦 60 周年の日米合同慰霊祭で、かつては敵同士だった日米軍の元兵士が並んで写真をとっている姿を見たとき、そして、現代、任地でアメリカ人やイギリス人のボランティアといっしょに活動できる喜びを分かち合ったとき、また、現在も支援を必要としている途上国の国々の現状を知ったとき、日本に帰国したら、一教師として「平和教育」を実践していかなければならないと、単なる知識としてではなく、実感として強く思った。

(2) 日本国憲法、教育基本法と「生きる力」の基本方針から

日本国憲法の前文によれば、「日本国民は、恒久の平和を念願し、・・・」と、平和で民主的な世界をつくるという決意が語られている。これを受け、教育基本法第一条「教育の目的」には、「教育は、人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、心理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」とある。そして、学習指導要領解説「総則編」では、「生きる力」を育成するための基本方針として、「①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること」を挙げ、体験的な活動の充実、人物・文化遺産中心の歴史学習の徹底の必要性を説いている。

そこで、これから、平和で民主的な世界を築く担い手となる子どもたちに、真の「平和」について考え、実感させることは、必要かつ不可欠なことである
と考える。

(3) 世界情勢と児童の実態から

現在担任している第6学年13名の児童は、4年生のころ、世界の国々に関心を示し、総合的な学習の時間に世界の文化や音楽について調べ、それらをまとめた。また、国語の学習や道徳の時間に、世界の戦争や紛争について考えてきた。そして、北朝鮮の問題やアメリカを始めとする各国で起きた自爆テロ事件などにも強い関心を示している。

しかし、児童の命や人権の大切さについての関心は高いとは言えず、メダカやウサギ、花などの植物の世話をした際には、殺してしまったこともあった。また、6年5月にとったアンケートでも、命や人権に対する関心度は低い数値であった。

そこで、自分のことだけでなく、自分以外のことや世界のことにも関心を示し始めてはいるものの、命や人権の大切さをあまり自覚していない子どもたちに、かつての歴史をきちんと教え、平和な世界を築いていくことの大切さを実感させたい。

(4) クロスカリキュラムで進める総合的な学習の時間について

クロスカリキュラムとは、総合的な学習の時間と他教科を融合した単元で進める計画のことである。

本研究では、まず、4年生時に総合的な学習の時間と音楽科を融合して「こんにちは！世界の国々」を行った。そして、6年生時には、総合的な学習の時間で作る「15年戦争」に、社会科の「戦争を体験した人々とくらし」「新しい日本、平和な日本へ」、音楽科の「音楽劇 ビルマの竖琴」とを融合させて、ひとつの大きな単元「平和な世界を」を計画した。

ここでは、まず、社会科の「戦争を体験した人々とくらし」を通して、15年戦争の流れをつかみ、総合的な学習の時間の「15年戦争」、音楽科の「音楽劇 ビルマの豎琴」でそれを深め、平和の大切さを実感させる。その後、社会科の「新しい日本、平和な日本へ」を通して、戦後の日本の平和への歩みを学習し、最後に総合的な学習の時間で、平和な世界をつくっていくために、自分にもできることを考え、結びとする。このように、総合的な学習の時間を社会科と音楽科との融合を図りクロスカリキュラムで進めることにより、単独で平和教育の実践を行うよりも、より効果的な学習を進めることができると考えた。

以上のことから、青年海外協力隊の経験を生かし、クロスカリキュラムで進める総合的な学習の時間を通して、**世界に目を向け、命や人権の大切さを実感させる平和教育の実践**が必要であると考え、研究主題を標記のように設定した。

3. めざす児童像

具体的にめざす児童像を次のように設定した。

- 世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じることもできる児童
- 平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけていこうとする児童

4. 研究の見通し

本研究は、対象児童が4年生のころから意識して実践してきた世界に目を向ける活動を受け、社会科の歴史を土台にしながら、総合的な学習の時間を中心に、それに音楽を加えたクロスカリキュラムで進めていく。また、日常生活の中で平和を意識して行ってきた活動についても取り上げることとする。

これらを受け、自分のことだけでなく、自分以外のことや世界のことにも関心を示し始めてはいるものの、命や人権の大切さをあまり自覚していない子どもた

ちに、それぞれ以下の手立てを講じれば、平和な世界を築こうとする意識が高まり、めざす児童が育つであろう。

「総合的な学習の時間、社会科、音楽科での見通し」

対象児童が、4年生のときに世界の国々についてもっと知りたいという願いをもったときに、6年生時で学習する太平洋戦争を年頭において、選択する地域にソロモン諸島など太平洋戦争の激戦地も提案し、音楽科と融合して南の島々の音楽や文化を調べ、この地域の明るく楽しい文化について学習した。そして、もし6年生時も対象児童を担当することができれば、社会科と融合させながら、太平洋地域の負の遺産である戦争の歴史について、心に訴え実感させられるような資料を用いて学習させることで、平和への思いを強くすることができると考えた。

第4学年での実践

(1) 世界に目を向け、他国の自然や文化に関心をもつための手立て

手立て① 写真や実物などの豊富な資料を用意し、児童の学習意欲を高める工夫をする。

手立て② 資料を基に、世界の国々の民族音楽や文化、慣習について調べ、日本のそれらと比較し、それぞれのよさを知る場を設定する。

第6学年での実践

(1) 世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じるための手立て

手立て① 15年戦争によって多くの尊い命が失われたことを感じられるよう、心に訴え実感させられるような資料を用意する。

手立て② 他国の兵士との交流を描いた音楽劇を演じることで、平和について考える場を設定する。

(2) 平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけ

ていこうとする意識を高めるための手立て

手立て① 世界には、現代も衣食住がままならない国や地域があることを知ること、自分の生活を振り返る場を設定する。

「日常生活での見通し」

(1) 世界に目を向けるための手立て

手立て① 「地球体験キャラバン」を招き、多くの外国人と接し、異文化に触れたり、共通点を見つけたりする場を設定する。

手立て② 「しくはっく活動」の中で、「戦時中の食事やソロモン諸島の食事を作って食べたり」「手洗いで洗濯したり」「バケツ一杯のお湯で体を洗ったり」「電気がない一夜を過ごしたり」する活動を通して、南太平洋の人々の生活や戦時中の不自由な暮らしを実体験する場を設定する。

手立て③ 海外から絵葉書を送ったり、海外の様子を話したりすることで、世界の自然や文化遺産、人々の暮らしなどを知る機会を増やす。

(2) 平和への意識を高めるための手立て

手立て① 平和を想起できる場所から絵葉書を送り、平和について考える機会を設定する。

手立て② 夏休みの行事予定表に終戦記念日や平和記念日を記載し、戦争について考える機会をもてるよう工夫する。

以上の見通しをもち、手立てを用いて、西会津町立奥川小学校第6学年13名の児童を対象に、研究を進める。

		6 年 生 時											
		4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
4年生時	5年生時	課題追究 「15年戦争」の学習計画を立てる。 課題追究 「15年戦争」について調べ、まとめる。 交流活動 「しくはつく活動」を通して、バケツ1杯の風呂、電気のない夜を体験する。 課題追究 奥川つ子まつりで「15年戦争」「音楽劇ヒルアの堅琴」を発表する。											
総合的な学習の時間		英語活動を通して世界に目を向ける											
社会科	音楽科	「世界に歩みだした日本」 「戦争を体験した人々とくらし」 「新しい日本、平和な日本へ」 「みんなの願いを実現する政治」 「わたしたちのくらしと日本国憲法」 「日本と関係の深い国々」「世界の平和と日本の役割」 「アジアの音楽に親しもう」											
他教科・日常生活	国語	「世界一美しいぼくの村」 「ヒロシマのうた」 「カンボジアから絵葉書が届く。」 「新しい日本に」 「道徳・平和と国際親善のために-「白旗の少女」こめらっ子「地球体験キャラバン」											

6. 研究の実際

めざす児童像 ○世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じることのできる児童
○ 平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけていこうとする児童

(1) クロスカリキュラムでの工夫

第4学年での実践 総合的な学習の時間、音楽科（クロスカリキュラム）での工夫

世界に目を向け、他国の自然や文化に関心をもつための手立て

手立て① 写真や実物などの豊富な資料を用意し、児童の学習意欲を高める工夫をする。

手立て② 資料を基に、世界の国々の民族音楽や文化、慣習について調べ、日本のそれらと比較し、それぞれのよさを知る場を設定する。

1. 学習指導計画

作成者氏名	林 美里		
学習実践レベル	総合的な学習 ・ クロスカリキュラム ・ 教科型		
単元タイトル	こんにちは！世界の国々		
総 時 間	17時間	学校種別・学年	小学校／ 4 年
学習のテーマ	世界の国々の民族音楽や文化、慣習について調べ、日本のそれらと比較し、それぞれのよさを知る。		
単元の教科	音楽、総合的な学習の時間（課題追究、国際理解、宿泊活動）		
単元の概要	第1次・・・アジア、アフリカ、オセアニア、西インド諸島の民族音楽や楽器、日本古来の音楽について学習する。 第2次・・・学習した民族音楽が生まれた国々の位置や文化、慣習、言語などについてグループに分かれ、それぞれインターネットやエンカルタ百科事典、書籍などを使って調べる。 第3次・・・調べた内容やしくはっく活動で体験した他国の文化についてわかったこと、感想をグループごとに模造紙、プレゼンテーション、体験レポートにまとめる。 第4次・・・奥川っ子まつりで、合奏や踊り、模造紙やプレゼンテーションなどにまとめたものを発表する。		
学習目標	○ それぞれの国の音楽に関心をもって意欲的に表現したり、楽器を作ろうとしていたりしている。（関心・意欲） ○ それぞれの国や地域の文化や慣習、言語などに興味を持ち、自ら課題を見つけ、進んで調べようとしている。（関心・意欲） ○ それぞれの国の民族音楽を、歌や合奏、踊りで楽しく表現することができる。（表現） ○ 学習したことや体験活動の思い出や感想を模造紙やプレゼンテーションとしてまとめることができる。（表現） ○ それぞれの国や地域と日本の文化や慣習の違いに気づき、異文化を理解しようとしている。（理解）		

学習段階	児童の学習活動	教師の活動・使用ツール
音楽 【6時間】 こんにちは、世界の	1. 「いろんな木の実」「サモア島の歌」「ラサ・サヤン」を聴いて、どこの国の曲か、想像する。 2. がそれぞれどこの国の曲か知った後、歌で表現する。 3. 自分たちで楽器を作り、「いろんな木の実」を合奏する。 4. 「チェツェツコリ」に、振り付けして踊りで表現する。	○ 「いろんな木の実」「サモア島の歌」「ラサ・サヤン」「チェツェツコリ」の曲を用意する。 ○ 上記5曲の国や地域の下調べをしておく。

学習段階	児童の学習活動	教師の活動・使用ツール
学習した4曲が生まれた国や地域について調べてみよう【3時間】	1. 5曲が生まれた国や地域 4 つ(西インド諸島、オセアニア、インドネシア、ガーナ)の中から、1つ調べる国や地域を決め、同じ国や地域同士でグループを作る。 2. それぞれの国や地域の位置、楽器、生活や文化、慣習などについて、調べる。 3. 日本古来の音楽について調べる。	○ 調べやすいように、調べる項目をあらかじめいくつか例示する。 ○ インターネット、エンカルタ百科事典、書籍を利用して調べる。 ○ 雅楽について調べておく。 ○ 校長に三味線について聞く。 参考 Web サイト及び引用文献 ソロモン会 http://www2.gizo.net/solomon/ サモア http://abroad.travel.yahoo.co.jp/tif/country/WS/

学習段階	児童の学習活動	教師の活動・使用ツール
各国や地域について調べたことをまとめよう【5時間】	1. それぞれの国や地域について調べた内容を、模造紙やプレゼンテーション形式にまとめる。 2. しくはっく活動で体験して、感じたこと、分かったことなどを体験レポートにまとめる。	○ プレゼンテーションの例を提示する。 <u>南の島のカメハメハ</u> <u>南太平洋の島々</u> ○ 体験レポートの枠組みを用意する。

学習段階	児童の学習活動	教師の活動・使用ツール
川っ子祭り発表しよう【3時間】	1. 「いろんな木の実」の合奏、「Shake Shake The Mango Tree」「サモア島の歌」の合唱を披露する。 2. それぞれの国や地域の生活、文化、慣習などのまとめと、しくはっく活動での体験レポートを教室に展示し、発表する。	○ まとめを掲示する前に自己評価する用紙を用意し書かせる。 ○ 発表や掲示物に対する感想や意見を書く用紙を用意し、児童同士の相互評価や保護者や来校者の評価を取り入れる。

2. 手立てに対する工夫と考察

世界に目を向け、他国の自然や文化に関心をもつための手立て

手立て① 写真や実物などの豊富な資料を用意し、児童の学習意欲を高める工夫をする。

【工夫】

南の島々の様子がわかる写真や切手、外国の教科書、世界の楽器、曲などを用意し、実際に触れたり、合唱・合奏したりする。



ソロモン諸島の童謡「Shake The Mango Tree」を合奏している様子



西サモアの民謡「サモア島の歌」を合唱している様子



竹で作ったバンパイプなどの民族楽器



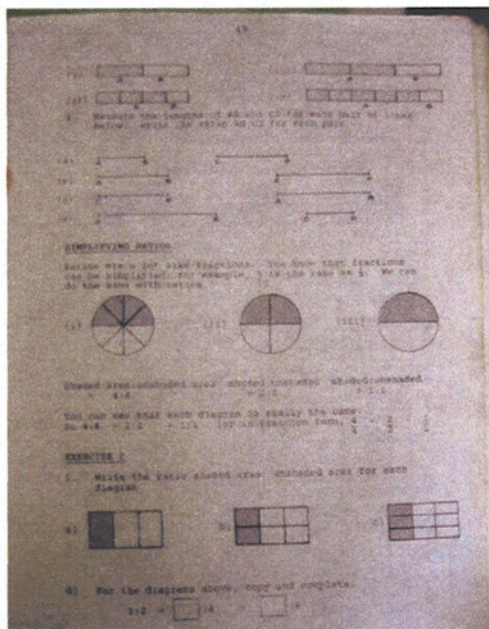
民族楽器を使ったカスタムダンスの様子



貝や木、石でできた民芸品



切手



中学2年生の数学の教科書

【考察】

南の島々の様子がわかる写真や切手、外国の教科書、世界の楽器、曲などを用意し、実際に触れたり、合唱・合奏したりする。

- 写真や現地の教科書を見たり、実際に楽器に触れたりしたことで、南の島々の様子が想像しやすくなり、児童の世界の自然や文化に対する関心が高まった。
- リズミカルで楽しい曲を選んだため、心配していた英語の曲「Shake The Mango Tree」にも抵抗を感じることなく、楽しく合唱・演奏していた。

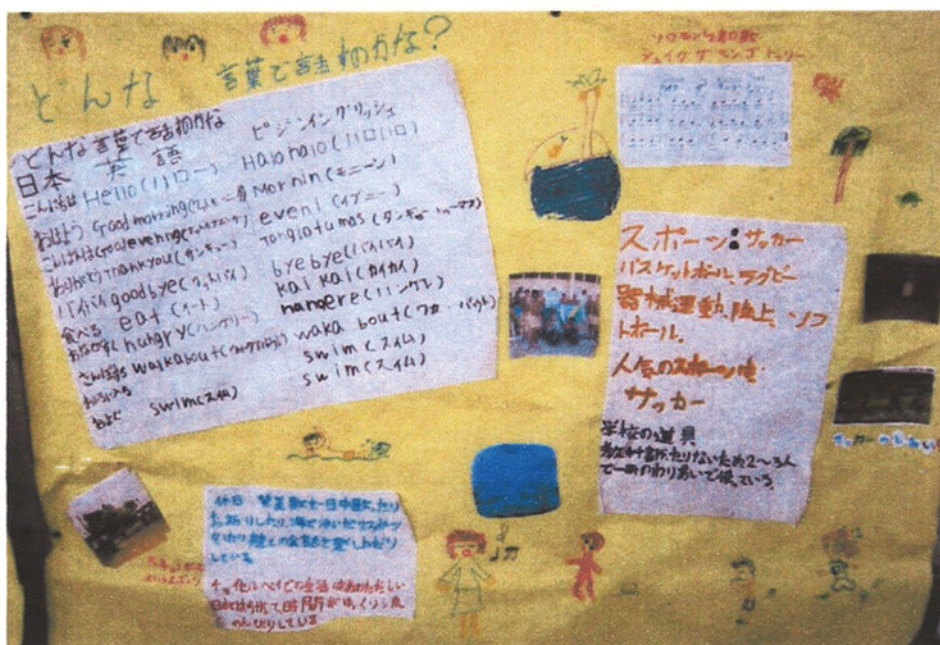
手立て② 資料を基に、世界の国々の民族音楽や文化、慣習について調べ、日本のそれらと比較し、それぞれのよさを知る場を設定する。

【工夫】

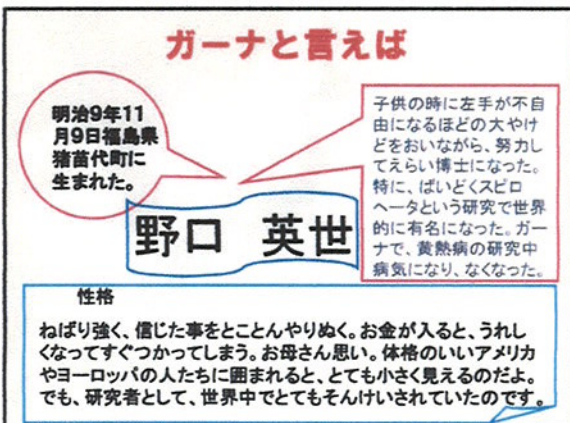
オセアニア、西インド諸島、ガーナ共和国の3つのグループに分かれて、写真や書籍、インターネット、エンカルタ百科事典などの資料を用いて、それぞれの民俗音楽や、文化、慣習等について調べ、それらをまとめながら、それぞれのよさを知る。



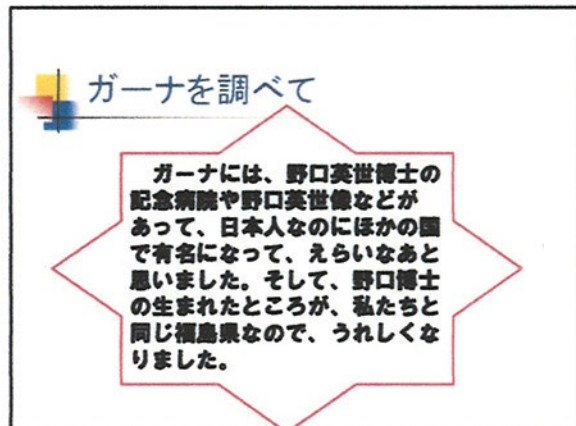
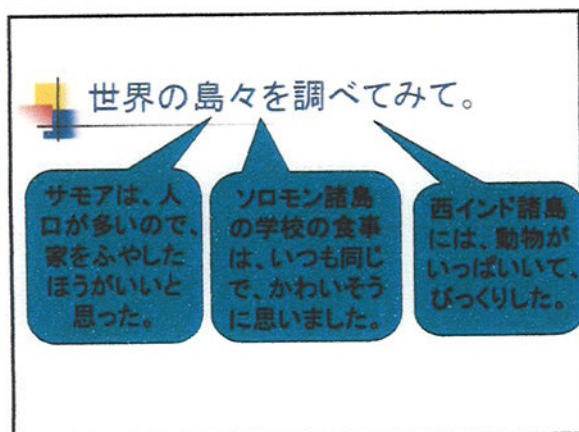
児童による西インド諸島の自然や文化のまとめ



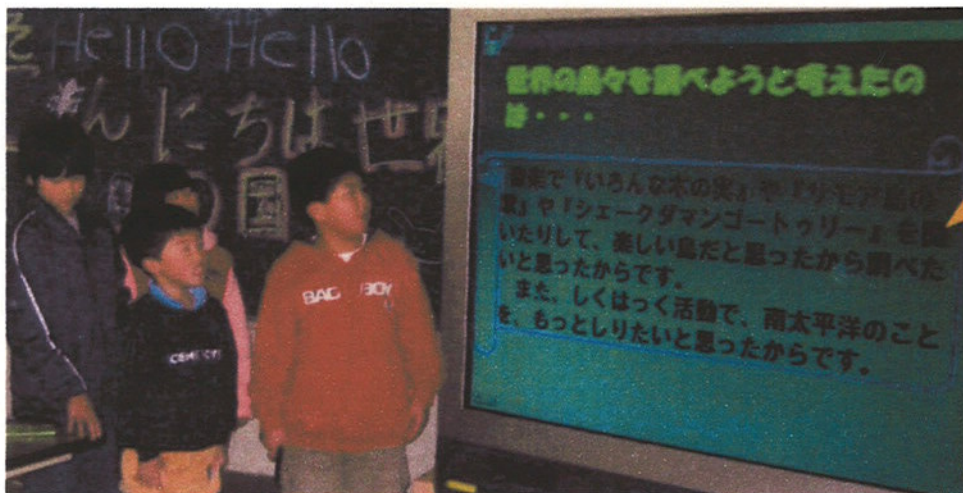
児童によるソロモン諸島の言語や音楽、スポーツのまとめ



児童によるプレゼンテーション用のまとめ



世界のことを知った児童の率直な感想も書かれている



調べ学習の動機に、前時までの音楽での学習のことを挙げている。



児童が、ソロモン諸島での実際の生活に興味をもち、まとめたもの。

パワーポイントを使った児童によるプレゼンテーションの様子

【考察】

オセアニア、西インド諸島、ガーナ共和国の3つのグループに分かれて、写真や書籍、インターネット、エンカルタ百科事典などの資料を用いて、それぞれの民俗音楽や、文化、慣習等について調べ、それらをまとめながら、それぞれのよさを知る。

- 調べ学習前の世界の音楽や文化との触れ合いの学習が生き、グループごとに、生き生きと調べたり、まとめたりしていた。
- 書籍やインターネットだけでは知りえない実際の学校の様子や慣習などを積極的に質問に来た児童が多かった。
- ガーナ共和国に関する写真や資料が十分とは言えず、このグループの児童のせっきくの学習意欲を十分満たすことができなかった。

第6学年での実践

(1) 総合的な学習の時間、社会科、音楽科（クロスカリキュラム）での工夫

めざす児童像 ○世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じることもできる児童
○平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを
見つけていこうとする児童

(1) 世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じるための手立て

手立て① 15年戦争によって多くの尊い命が失われたことを感じられるよう、心に訴え実感させられるような資料を用意する。

手立て② 他国の兵士との交流を描いた音楽劇を演じることで、平和について考える場を設定する。

(2) 平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけていこうとする意識を高めるための手立て

手立て① 世界には、現代も衣食住がままならない国や地域があることを知ることで、自分の生活を振り返る場を設定する。

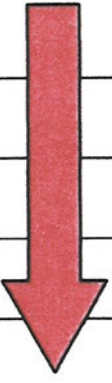
1. 単元名 「平和な世界を」(対象 第6学年 13名)

2. 単元の目標

15年戦争について、心に訴え実感させられるような写真などの資料を用いて詳しく調べ、それらをまとめたり、太平洋戦争の音楽劇を演じることで、兵士の本当の思いについて考えたりして、平和についての考えを深め、自分の生活に生かしていくことができる。

3. 単元の計画（総合的な学習の時間25時間、社会11時間、音楽9時間 計45時間）

時 数	学 習 活 動 ・ 内 容				
	社 会	総合的な学習の時間	音 楽		
1	命や人権の大切さ、平和の尊さを学ぶ	太平洋戦争のビデオを見て、これから学習する戦争の恐ろしさについて考える。			
2		戦争の体験をされた地域の方をお呼びし、お話を聞く。			
3		「15 年戦争」の概要を理解する。			
4		中国に広がった戦争について理解する。			
5		真珠湾攻撃から、太平洋に戦争が広がっていったことを理解する。			
6		戦時中の日本の暮らしと敗戦について理解する。			
7	命や人権の大切さ、平和の尊さについての考えを深める		「15 年戦争」の学習計画を立て、テーマごとに班分けをする。		
8			班ごとに、テーマに沿って具体的な学習計画を立てる。		
9 ～ 12			班ごとに、学習計画により、テーマについて詳しく調べる。		
13 14			班ごとに、調べてきたことを模造紙にまとめる。		
15 16			班ごとに、調べてきたことを模造紙にまとめる。	他国の兵士との交流を通して平和について考える	「ビルマの豎琴」のあらすじを知る。
17 18			模造紙のまとめを使って発表の練習をする。		「ビルマの豎琴」のあらすじを知る。
19 20			模造紙にまとめたことを発表し合う。		音楽劇にする場面、歌う歌を決める。
21 22			模造紙にまとめたことを発表し合う。		シナリオ作り、紙芝居作りの役割分担をする。
23 24			模造紙のまとめと発表の反省を生かして、パワーポイントを使ってプレゼンテーション資料を作る。		班ごとに、シナリオ、紙芝居を作る。
25 26				模造紙のまとめと発表の反省を生かして、パワーポイントを使ってプレゼンテーション資料を作る。	班ごとに、シナリオ、紙芝居を作る。
27 28		模造紙のまとめと発表の反省を生かして、パワーポイントを使ってプレゼンテーション資料を作る。	音楽劇「ビルマの豎琴」を通して練習する。		

29 30			プレゼンテーションの練習をする。		音楽劇「ビルマの竖琴」を登場人物の気持ちになって演じる。
31 32			プレゼンテーションの練習をする。		音楽劇「ビルマの竖琴」を登場人物の気持ちになって演じる。
33 ～ 36			奥川っ子まつりで、「15 年戦争」「音楽劇 ビルマの竖琴」を発表する。		
37 38			「ひめゆりの塔」のビデオを見て、戦争が多く命だけでなく、一人ひとりの思いや願いまでも奪うということを再認識する。		
39	平和な世界を築く態度を養う	「新しい日本、平和な日本へ」の学習計画を立てる。			
40		戦後の暮らしについて調べる。			
41		戦後の民主的な改革について考え、理解する。			
42		国際社会への復帰と現代の課題について考える。			
43		現代の平和で豊かな暮らしについて考える。			
44			自分に見つけることができること	平和への願いを川柳に表す。	
45 本時				宇宙船地球号の一員として、自分にもできることを考え、学習のまとめをする。	

4. 手立てに対する工夫と考察

(1)「世界に目を向け、命や人権の大切さを思い、平和の尊さを感じるための手立て」に対する工夫(第1時～第38時)

手立て① 「15年戦争によって多くの尊い命が失われたことを感じられるよう、心に訴え実感させられるような資料を用意する」について

【工夫】

(ア) 社会科の教科書や資料集にとどまらず、ソロモン諸島滞在中に撮ってきた写真や書籍、切手、広島で集めてきた書籍や平和記念式典の様子の写真、また、地元福島については「郡山の歴史」などを用意し、まとめて利用させた。



ソロモン諸島(ガダルカナル島)の資料を用いた児童のまとめ



戦争によって多くの命が失われたことを写真と数字で具体的に表している

太平洋戦争の犠牲者を西会津の現在の人口と比較して、多くの命が失われたことを分かりやすく表す工夫がされている。

原爆の被害



被爆して丸こげになった弁当



8時16分で止まった時計...

被爆で丸こげになった三輪車



戦時中の外出服装

当時市民の外出服装は、



防空頭巾



モンペ

地下足袋だった。

広島復興活動

1950(昭和25年)

・市民の努力で、半年で5000戸のバラックと1000戸の簡易住宅が建設された。

・校庭の木かげにムシロをしいた「青空教室」が各地でみられた。

1958(昭和33年)

・広島の人口も戦前の41万人まで回復し、広島にももとの平和な暮らしがもどった。

平和記念式典



しかし、原爆が落とされて、
たくさんの人々が亡くなってしまった悲しみがきえることはない。



バラックの様子



青空教室

広島で集めてきた資料を使ったまとめ

広島平和記念式典の様子

原爆のいかり



広島市街が
焼け野原とな
り、建物の骨
組みだけが残
っている。

あんなに焼け野原だ
った広島を今ではみんな
にきれいな街に元気づけま
した。

原爆投下直後の広島と
現在の広島の様子を比較
して、原爆のもたらした被
害を分かりやすく説明して
いる。

原爆のことを調べて...

私は、原爆のことを調べて、
 害と長さは本当に被害が大きい
 ことと分かりました。
 放射能による人の被害が一番
 残るのだと思、たまたまの被害
 を受けるほどの原爆の威力の強さ
 も知ることに出来ました。
 今、イラク戦争が起きていま
 す。それにより人がたくさん死
 くな、ていいます。早くイラク戦
 争が終わってアメリカやフランス
 兵士、ていふ兵士が（原爆爆弾）
 や、カンボジアに落とす地雷
 も消えてほしいです。
 そして私は、少しでも早く世
 界から戦争がなくなると願
 いと強く思っています。

私は原爆のことを調べる前か
 ら、原爆はおそろしい物だと分
 かっていました。しかし、今回原爆に
 ついて詳しく調べて、と細かいところまで
 分かって、やはり原爆はこわいなあと思
 いました。また、日本に原爆が落とされた原因の
 戦争が世界中でなくなればいいなと
 思います。

原爆の被害について詳しく調べ
 たことで、その恐ろしさを実感して
 いる様子がうかがえる。

この学習を通して、現代のイラク
 戦争や核兵器問題、地雷撤去に
 ついて、以前に増して、真剣に考え
 るようになったようだ。

戦時中の不
 自由な暮らし
 を知り、今の
 自分の生活を見
 直す態度が
 育っている。

私は、戦争中のくらしの被害を調べて戦争中は米もな
 いものが多かった、たまたま、はじめて知りました。今
 の生活の食べ物はいくらでも、ごうがじ、ないかなあと思
 いました。ぼくはこれから戦争が行なわれたいようにしたいで
 す。

私は戦争中の福島県のくらしを調べて、知。たことが、2つ
 あります。1つは、若松二中被害、兵舎だったことです。2つ
 は、12月24日にぼくさんがおとされたことです。12月24日は
 イスの日です。私は、この日にはぼくさんをおとされてほし
 くないです。また私は、やはり戦争はいやだと思、今、イ
 ラクのバグダッドで戦争が続いてい、1日も早くや
 りたいです。

太平洋戦争を調べた感想

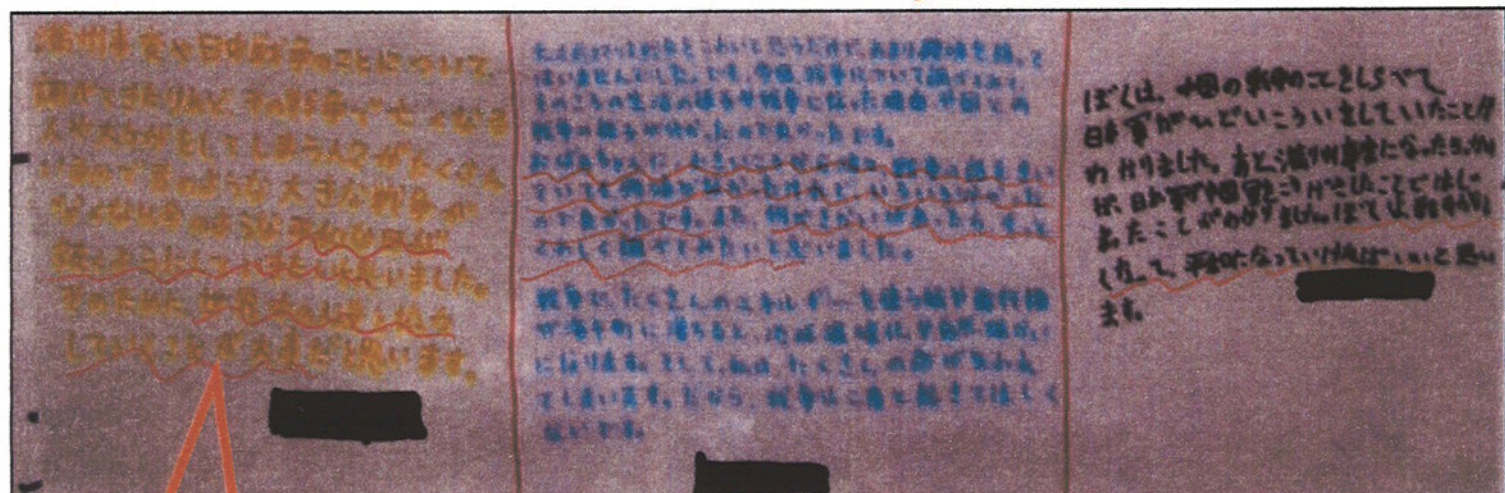
戦争は怖いと思わせたかというところ、
 人やモノが死ぬからです。
 だから、僕は、戦争はよくないと思います。
 ぼくは、戦争はよくないと思います。

太平洋戦争は日本がハワイの真珠湾に攻撃した
 から始まりました。
 そのとき、日本の民間人も、兵隊も、死にました。
 戦争に巻き込まれた人は、みんな死にました。
 戦争は、よくないと思います。

僕は戦争はよくないと思います。
 戦争は、人を殺すからです。
 だから、僕は戦争はよくないと思います。
 ぼくは、戦争はよくないと思います。

戦争で多くの命が失われたことを知り、二度と戦争が起こらないようにしたいという思いが綴られている。

以前は戦争の話が聞かされてもあまり興味をもてなかったが、この学習を通して戦争と平和についてもっと考えていきたいというように、意識が変わった。



平和な世界を築いていくためには、世界中の人々との協力が必要だと綴っている。

戦争により、家族や友達が離れ離れになることを知り、平和の尊さを実感している。

沖縄戦を調べてみて

ぼくは、沖縄戦を調べてみて、とても
 沖縄がひどくやられてしまったことがわかった。
 だから、ぼくは、戦争はよくないと思います。

ぼくは、戦争はよくないと思います。

ぼくが沖縄の戦争のことを調べて思ったことは、
 沖縄の人々がかわいそうだったということです。
 家や学校が壊れてしまったからです。
 ぼくは、これからは、平和にしたいです。

ぼくがかわいそうだと思うことは、
 沖縄の人々がかわいそうだったということです。
 家や学校が壊れてしまったからです。
 ぼくは、これからは、平和にしたいです。

3. 玉木さんのお話を聞いて、感じたこと、なるほどと思ったこと、もっとくわしく調べたいことなどをどんどん書こう。

今は戦争は日本です、いなりので良かったと思いました。
そして、玉木先生に、いろいろなことが分かって良かった
と思いました。

また、今はないけど、戦争中の武器や知恵、食べ物
などがあって、すごいと思いました。



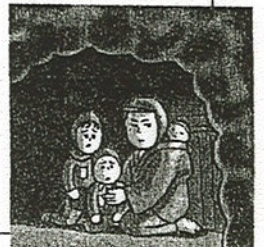
奥川に住んでいた人が20人もいたとは信じられなかったです。
今は、戦争はないけれど、奥川にいて良かったです。
いろいろ教えてもらえて良かったです。



教科書は、先はいから、ゆずってもらうというのがおどろきでした。
これから、いろんな戦争の事などを調べてみたいと思いました。



戦争のときの事や、戦争のときの苦さがわかったの
良かったです。



地域の方のお話を聞いた児童の感想には、戦時中の町の様子や人々の暮らしについてよく分かったこと、これから戦争についてもっと詳しく調べていきたいと関心を深めたことなどがうかがえる。

(ウ) 導入とまとめに戦時中の様子がわかるビデオを見せた。

「ひめゆりの塔」のビデオを見た子どもたちの感想から

戦争によって多くの人の夢や希望までが消えてしまったことを感じている様子がうかがえる。

ひめゆりのとうをみた感想

私は、今日生まれて初めてひめゆりのとうのビデオを見ました。日曜日に行われた奥川予まつりでのステージ発表でも、さんの発表を聞いても、かわいそうだなあと思っ
ていました。今日のビデオをみて、映像なので、もっと分
りやすく、ひめゆり隊の人達が自分の夢をかなえられな
いままに、自分から自決したりしたのがとてもかわいそう
だなあと思いました。また、戦争がなかったら先生にな
ったり自分の夢がかなったり家族とはなればな
れにならなくてよかったし、自分のやりたいことができ
たり、家族の人や友達の人と助け合ったりして、平和に
くらせたり、自分から死のうな
んて考えなくてよかったのだな
あと思いました。

そうだね。自分の夢や人生、家族をめちゃくちゃに
してしまうのが戦争なのだね。

ひめゆりの塔を見た感想
ひめゆりの塔を見て、ひめゆり隊は、ケがした人
たちをケがのてあてのために、戦場にいかなければ
かいませんでした。

最後に、じけつをしなかつたら、牛き
えいられたのかまじがまじい。
もし戦争したひめゆり隊の人たちは、
自分で自分の道をきいたのだ
だと思います。

そうだね。戦争は人生をめちゃくちゃにするのだね。



11/24 私は「ひめゆり隊」のビデオ、「ひめゆりの塔」を見て発表まで、少しだけ知っていましたが、今日、ビデオを見て、私とあまりとはかわらないのに、
かんごふとしていろいろなことをやっていたので、
かわいそうだと思いました。
そのころ日本は、敵においつめられると、自決しないといけ
ないといっていたので、そのために死なないといけ
ないなんて、大変だと思いました。
戦争がなかったら、きっと、とても平和で、幸せな生活をおく
っていて、友達が
亡くなったり、ケがしたりするつらさや、悲しい思いをしな
くすんだのだと
思いました。 そうだね。戦争は悲しいね。

【考察】

(ア) 社会科の教科書や資料集にとどまらず、ソロモン諸島滞在中に撮ってきた写真や書籍、切手、広島で集めてきた書籍や平和記念式典の様子の写真、また、地元福島については「郡山の歴史」などを用意し、まとめて利用させた。

- 児童の感想にもあるように、文字から得られる情報に加え、戦時中の様子や戦争の傷痕の写真を用いたことで、当時の様子を想像しやすくなり、戦争の悲惨さを実感させることができた。
- 被災したころの写真だけでなく現在の写真も用いたことで、戦争の悲惨さがより浮き彫りになり、児童に伝わりやすくなった。

(イ) 実際に、学級で奥川小学校裏に残る防空壕や奥川の慰霊碑へ赴いたり、地域の方をグロテスクティーチャーとして迎え戦争当時の話を伺ったりし、まとめる際に、それらを有効的に利用させた。

- 実際に、戦争当時の防空壕の中に入ってみたり、戦没者慰霊碑に手を合わせたり、そこに祖先の名前を見つけたりしたことで、戦争についてもっと知りたいという意識が高まったり、戦争で亡くなった人がたくさんいたことを実感したりしていた。
- 戦争について知りたいことをあらかじめ整理し戦争を体験した地域の方にお聞きしたことで、当時の生活の様子や戦時中の緊張感を実感していた。
- 自分たちで見たり、聞いたりしたことを基に、写真などの資料を使ってそれらをまとめたことで、戦時中の生活の大変さや家族など身近な人が突然亡くなるつらさを実感していた。

(ウ) 導入とまとめて戦時中の様子がわかるビデオを見せた。

- 導入で航空機や戦車、機関銃などを使用している場面の映像を見せたことで、それまで武器をカッコいいと考えていた児童が、武器は人の命を奪うものだと改めて知り、その武器をたくさん使う戦争というものについて考えていきたいという思いを抱いていた。
- 写真や文字では実感しきれないことを、映像を通して知ること、戦争の恐ろしさやひとつの爆弾で一瞬にして多くの命が奪われることの本当の意味を知識としてではなく、実感として理解させることができた。
- 発達段階を考慮し、あまり残酷な場面の入っていない映像を使用したのも、どの児童も大きなショックを受けることなく、戦争の悲惨さをそのまま受け入れていた。
- 児童により多くの場面を見せたいと思うあまり、予定時数を超えてビデオ上映をしてしまった。

手立て② 「太平洋戦争の音楽劇を演じることで、兵士の本当の思いについて考える場を設定する」
について

【工夫】

竹山道雄作「ビルマの豎琴」の一場面を読んで聞かせるとともに、そのビデオを見せ、シナリオを作り、役を演じることで、兵士の気持ちを想像させた。

音楽劇「ビルマの豎琴」シナリオ

場面 1 ビルマ人と歌う

ナレーター： やっと日本兵は、ビルマからタイへの国境付近まで
近づきました。そこには村があり、一晩そこへとめて
もらうことになりました。

隊長がいました。(1, 2)

隊長：「泊めていただくお礼におぼろ月夜を歌おう。」

全体：おぼろ月夜を歌う



場面 2 敵を見つける

隊長：「おい、ちょっと待て。外に敵がいるぞ。」

ナレーター： これは大変、いつの間にか家の外の森は、イギリス兵
で包囲されていたのです。このままでは攻められてし
まうと考えた隊長は、(1, 2)

隊長：「歌を続けろ。笑え。」

「こちらが敵に気づいていないふりをするのだ。」

全体：箱根八里を歌う

ナレーター：隊長の言う意味がわかったみんなは、歌を歌いながら戦いの準備を始めました。



場面 3 歌いながら荷車を運ぶ

ナレーター：(全員が立ってから) さあ、あとは家の外にある爆弾
の入った荷車を近くに持ってくるだけです。今度も
日本兵は陽気に歌いながら50m先にある荷車をと
りにいきました。

全体：はにゅうの宿を「～鳥は友」まで歌う



場面 4 戦闘準備・イギリス兵が歌う

ナレーター：（全員がわきにいったから）これで、いつでも戦闘に入る準備が整いました。

隊長：「全員配置につけ」

ナレーター：隊長が叫んだそのときでした。

イギリス人：はにゅうの宿を英語で歌う

ナレーター：これはどうしたことでしょう。森にかくれていたイギリス兵がなんと英語ではにゅうの宿を歌っていたのです。



場面 5 日本兵、イギリス兵がいっしょに歌う

ナレーター：（歌い終わってから）日本兵はびっくりして英語で歌うはにゅうの宿をききました。

日本人：イギリス人に合わせて、日本語ではにゅうの宿を歌う。

ナレーター：いつしか英語と日本語のはにゅうの宿が重なり合い、イギリス兵と日本兵の区別もなく、肩を組んで歌っていました。→（自分も仲間に混ざる）

ナレーター：イギリス人にとっても、日本人にとっても、ふるさとを思う気持ちに変わりはなかったのです。（1， 2）

ナレーター：日本兵は、この日、武器を捨てました。



♪ 塙生の宿もわが宿・・・♪



ステージで劇を演じる様子

日本兵は、この日、武器を捨てました。

今年で最後の奥川っ子まつり

今年で最後の奥川、子まつりでした。その中でも、一番の思い出は、ここが二つあります。

一つ目は、ステージ発表の事です。私は、ビルマのたてごとのげさを、工夫しました。練習のとき、歌の分々に感情がこもって、いなくて、何回もかみを見て、顔に感情をも、練習しました。本番は、十五年戦争の事は、ビルマのたてごとにも感情を顔に出して発表できました。

二つ目は、教室発表の事です。戦争博物館には、たくさんの人たちが来てくれました。とくに、おじいさまやおばあさま、など年上の人たちが来てくれました。ビルマのたてごと、のビデオを見せるように、ビデオをイスを十個ほど準備して、教室発表の後半になりました。たてごとの人たちが戦争博物館にきてくれたと思います。この事をき、かけに、一人でも多くの人に戦争の苦しみや悲しみを伝えたい、これからの未来と平和についてもっと考えを深め、戦争のない未来にしていきたいという強い思いが書かれています。

一人でも多くの人に戦争の苦しみや悲しみを伝えたい、これからの未来と平和についてもっと考えを深め、戦争のない未来にしていきたいという強い思いが書かれています。

戦争の悲しさが見ている人によく伝わるように、表情を工夫したことが書かれています。

良くてきた奥川、子まつり

今年、私にとって最後の奥川、子まつりだった。大きな声でやりました。

六年生は、十五年戦争とビルマのたてごとの劇を演じました。十五年戦争は、奥川のたてごと、満州事変などの事がありました。私は、奥川と奥川に落とされた原爆について調べてきました。奥川の心の中で特にひどいと思ったのが、ます。それは、放射能という被害です。顔や体がくたくたに写真も見ました。

ステージ発表のときは、放射能について話してはやりませんでした。原爆の被害の場所を強く言いました。

ビルマのたてごととは、十レーターをやりました。隊長との二役わり、場面ごとに、強く言、たりするなど、強弱を付けてやりました。

最後のは、奥川の心を歌いながら、表現もつくりました。イギリス兵と日本兵が仲良しになるところだ。たのぞ、うれしそうに表情をしました。

教室発表は、ザ・ワールド・ウォーをやりました。来ていただいた人は、奥川に見ていました。

奥川、子まつりを通して、戦争を体験したおじいさん、おばあさんは、当時のことを思い出したりして、私達の発表が伝わったのかと思います。たてごとにもありました。私は、これからの未来と平和について考えていきたいと思いました。

最後の奥川。……り

「六年生の踊いします。」

と、ぼくは言いましたが、心の中は、ドキドキしていました。

「これから六年生の発表を始めます。」

と、ぼくは、声がふるえながら言いました。そして、ぼくの言にな、て言い終わると、はく手をして、さくさくかたびず。太平洋戦争の人と交替すると、緊張もなくなりました。ビルマのたてごとのげきび歌をうたう部分では、練習と同じく、いっしん声を出すことができてよかったびず。

教室発表では、ぼくは、前半の担当でした。でも、ぼくは、ず。とびデオを見ていました。お父さんに、

「こつだよ、げきにしたいの。」

と言うと、

「ここが。」

と言うと、お父さんは、びデオを見ていました。前半と後半の交替になって、ぼくは、びデオを見ていました。と、中で、二年生が作った、カンボールめいろに、いきました。かんたんだと思っていました。が、入って、びると、むかしくて、ワリアで、きません。でした。

最後の奥川。……り

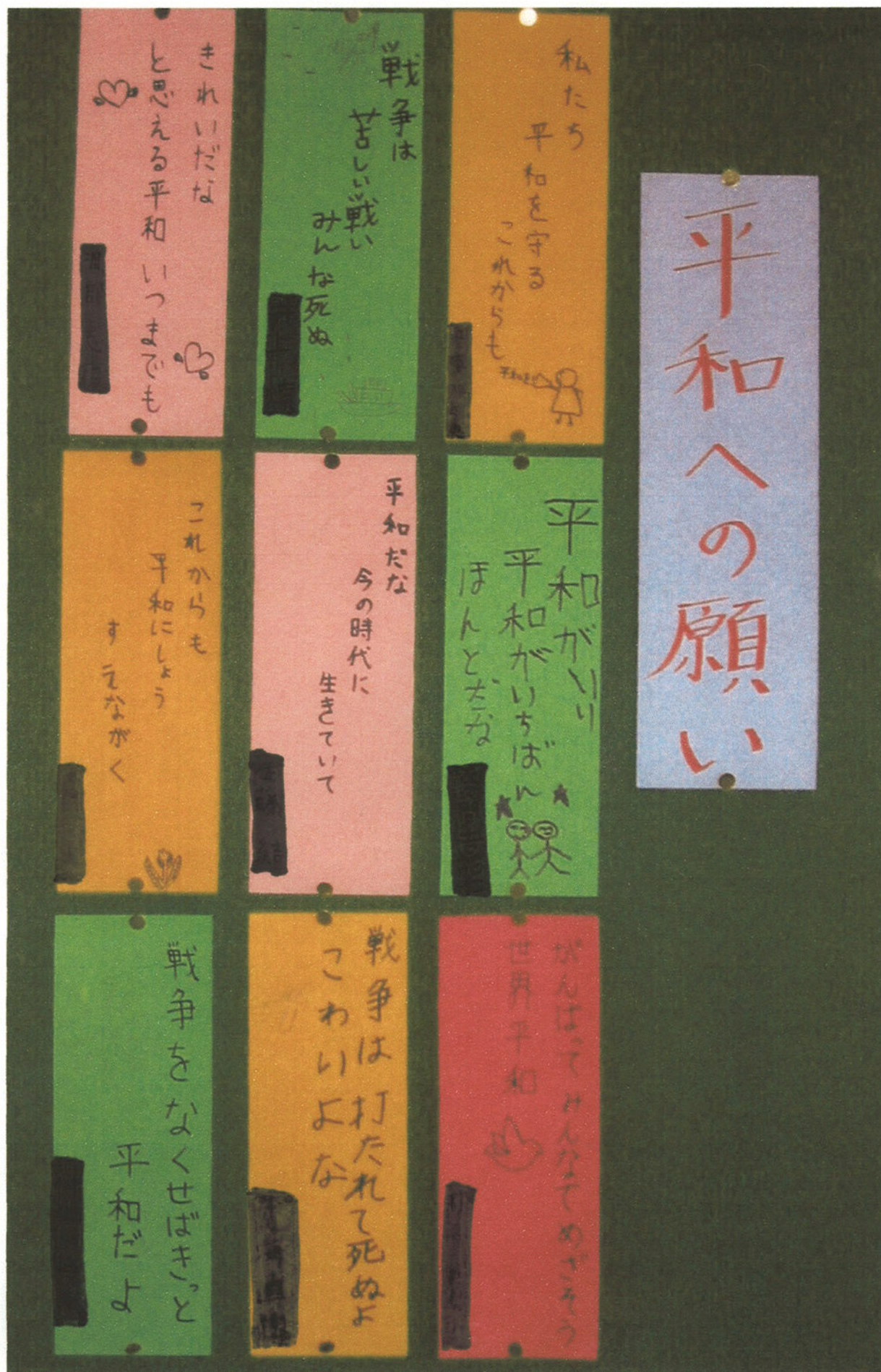
ぼくは、戦争という悲しい事実をお父さんや、お母さんなどに教えることができてよかったびず。



【考察】

竹山道雄作「ビルマの豎琴」の一場面を読んで聞かせるとともに、そのビデオを見せ、シナリオを作り、役を演じることで、兵士の気持ちを想像させた。

- 児童が「ビルマの豎琴」の内容を知ったことで、敵同士で戦っていても、その敵にも家族や友達などの大切な人がいること、お互い決して好きで相手を殺していたわけではなかったのだということを感じ、そのことが見る人に伝わるような劇をしたいと、気持ちを高めていた。
- 日本兵がビルマ人とともに歌う場面で、どんな日本の歌を歌うか決める際、今までの音楽の時間に学習した曲が挙がり、そのなかから場面にふさわしい曲を選曲していた。そして、日頃、大きな舞台ではなかなか大きな声で歌えない子どもたちが、見ている人に伝わるようにと、声の出し方や歌い方、タイミング、また、鏡を見ての顔作りなどを研究し、戦争や平和への思いを真剣に表現していた。



(2) 平和な世界を築いていくために、日常生活の中で自分にもできることを見つけていこうと
する意識を高めるための手立て（第45時）

手立て① 世界には、現代も衣食住がままならない国や地域があることを知ることで、自分の生活を振り返る場を設定する。

【工夫】

（ア）世界に目を向けさせる工夫

- 発展途上国の子どもたちの様子を写真で提示し、同じ地球でも自分たちと違うくらしを強いられている子どもたちもいることに気づかせる。

（イ）命や人権の大切さに気づき、平和の尊さを感じさせる工夫

- ① 事前にアンケートをとることで、自分にとって大切なものを見直す機会を設定する。
- ② 宇宙船ゲームの中で、宇宙船の外に命あるものを捨てられない自分に気づかせ、命の大切さを再認識させる。
- ③ ワークシートにゲームの結果を書き、途上国の子どもたちにとっては、必要なものとほしいものが同じであることに気づかせ、衣食住は生きていく上でなくてはならないもの、基本的な人権であることを再認識させる。
- ④ 写真などから途上国の子どもたちの様子を知ること、自分たちのおかれている平和が尊いものであることに気づかせる。

（ウ）平和な世界を築くために、日常生活の中で自分にもできることを見つけようとする態度を育てる工夫

- 途上国の子どもたちの現状を知ること、自分たちの生活の豊かさに気づかせ、自分の生活を見直し自分にもできることはないかを考えさせ、ワークシートに書かせる。

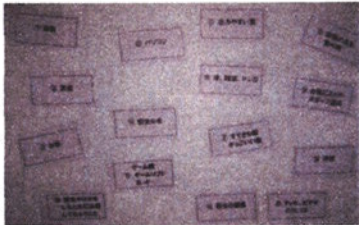
○ 本時の目標

日常生活で自分たちがほしいものや願っていることを振り返り、発展途上国の子どもたちと自分たちの生活を比べることにより、自分たちの生活を見直すことができるようにする。

○ 学習過程

	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ※教師の支援
導入	1. 本時の課題をつかむ。 (1) アンケートの結果を紹介する。 (2) 課題を確認する。 自分たちのほしいものを見直してみよう。	5	※事前にとったアンケート結果をまとめ、児童の願いや思いを把握しておく。 〔手立て (イ) ①〕
展開	2. 班内で相談しながら、アクティビティ「宇宙船ゲーム」を進める。 (1) 班ごとに 15 枚 (家族、友達、お金、服、ゲーム、家、水、食べ物など) の装備カード (アイテム) を机に広げる。 (2) (1) の装備とともに宇宙船に乗って宇宙旅行に出る。 (3) アクシデント 1 で、3 つのアイテムを捨てる。 (4) アクシデント 2 で、8 つのアイテムを捨てる。 (5) 最後に残った 4 つのアイテムが何であったか、その 4 つをなぜ残したのかについて、自分の考えをワークシートに書き込む。 ・ 安全な水 ・ 栄養のある食べ物 ・ 家族 ・ 友達 が残るか？ 3. 最後に残した 4 つのアイテムの意味について全体で考える。 (1) 班ごとに出した結論を発表し、4 つのアイテムとアンケート結果を見比べ、4 つのアイテムが自分たちにとってどういう意味をもつものなのか話し合う。 (2) 途上国の子どもが、「水をもらっている写真」「食べ物をもらっている写真」「道路で寝ている写真 (ストリートチルドレン)」を提示し、この子どもたちのほしいものについて考える。 (3) 途上国の子どもたちのほしいものは生きていく上で必要なものと同じであることを知る。 4. 地球全体が平和になるために自分にできることについて考える。 (1) 途上国の子どもたちも、自分たちも同じ地球人であり、宇宙船地球号の乗組員であることに気づく。 (2) 同じ地球人として、世界平和のために、これからどんなことをしていきたいか考え、ワークシートに書く。	35	※子どもたちのアンケートの結果から出したほしいもの・大切なもの 10 個に、生きていく上で必要なものなどを加え、15 枚のカードにし、3 班分のセットを用意しておく。 ※場の雰囲気盛り上げる曲、宇宙船の写真を用意する。 ○宇宙に捨てるので、生物は生きていけないことを確認する。〔手立て (イ) ②〕 ※机間指導をして、困っている子どもには個別に対応する。 〔手立て (イ) ③〕 ○4 つのアイテムのどれもが自分たちのほしいものには入っていなかったことに気づかせる。 ○自分たちにとって、生きていく上で必要なものとほしいものとが違うことに気づかせる。 ※あらかじめ、写真を 3 枚用意しておく。 〔手立て (ア), (イ) ④〕 ○自分たちのほしいものの中に、水や食べ物、家などがないのは、それらのものに不自由していないからだということに気づかせる。 ○悩んでいる子どもには、大げさに考えず、自分にできる範囲のことでいいことを伝える。〔手立て (ウ)〕
終末	5. 本時を振り返る。 今日の授業で感じたこと、気づいたことなど、感想を交流する。	5	【評価】 途上国の子どもたちのことを知り、自分の生活を振り返ることができたか。

【本時の記録と考察】

学習活動・内容	学習の実際・児童の様子
1. 本時の課題をつかむ。 (1) アンケートの結果を紹介する。 (2) 課題を確認する。 自分たちのほしいものを見直してみよう。	T: アンケート結果を提示する。 C: アンケート結果から、自分たちの大切にしているものが、家族や友達であり、ほしいものがお金やゲームであることを知る。  「大切なもの」「ほしいもの」のアンケート結果
2. 班内で相談しながら、アクティビティ「宇宙船ゲーム」を進める。 (1) 班ごとに15枚(家族、友達、お金、服、ゲーム、家、水、食べ物など)の装備カード(アイテム)を机に広げる。 (2) (1)の装備とともに宇宙船に乗って宇宙旅行に出る。 (3) アクシデント1で、3つのアイテムを捨てる。 (4) アクシデント2で、8つのアイテムを捨てる。 (5) 最後に残った4つのアイテムが何であったか、その4つをなぜ残したのかについて、自分の考えをワークシートに書き込む。	T: 「宇宙船ゲーム」をすることを告げ、班ごとにカードを配る。 C: 「宇宙船ゲーム」の準備をし、教師の進行に合わせて、ゲームを進める。 15の装備カード(アイテム)  T: 家族や友達を捨てようとしている班に対し、宇宙船の外では生きていられないことを確認する。 C: 宇宙船に残す4つのアイテムを何にするか、班内でよく話し合う。 各班の結果 1班: 家族、友達、安全な水、栄養のある食べ物 2班: 家族、友達、栄養のある食べ物、救急箱 3班: 家族、友達、安全な水、栄養のある食べ物
3. 最後に残した4つのアイテムの意味について全体で考える。 (1) 班ごとに出した結論を発表し、4つのアイテムとアンケート結果を見比べ、4つのアイテムが自分たちにとってどういう意味をもつものなのか話し合う。 (2) 途上国の子どもが、「水をもっている写真」「食べ物をもっている写真」「道路で寝ている写真(ストリートチルドレン)」を提示し、この子どもたちのほしいものについて考える。 (3) 途上国の子どもたちのほしいものは生きていく上で必要なものと同じであることを知る。  ストリートチルドレン	C: どの班も残った4つのアイテムは、大切な人と、人が生きていく上で必要なものだと発表する。 T: 途上国の子どもたちの写真を提示し、何をしているところか尋ねる。 C: 写真の子どもたちは、それぞれ「水」「食べ物」「家」が一番ほしいものだと気づく。 T: 私たちにとっても「水」「食べ物」「家」は必要なのに、なぜアンケート結果にないのか尋ねる。 C: 3つともすでに持っているものだから書かなかったと答える。  食べ物をもらう子どもたち   水汲みをする子どもたち
手立て2「命や人権の大切さに気づき、平和の尊さを感じさせる工夫」についての考察 ○ 事前にアンケートに答えさせ、その結果をグラフ化したことで、自分たちの大切にしているものやほしいものと途上国の子どもたちのそれとを容易に比較させることができた。 ○ 途上国の子どもたちのほしいものと必要なものが同じだということに気づき、「衣食住」は生きていく上でなくてはならないものだとして再認識し、その基本的人権すら守られていない子どもがいることに気づかせることができた。 ○ 写真の様子から、自分たちの置かれている平和が尊いものであることを実感していた。	

4. 地球全体が平和になるために自分にできることについて考える。

(1) 途上国の子どもたちも、自分たちも同じ地球人であり、宇宙船地球号の乗組員であることに気づく。

T: 写真を使いながら、私たちの住む星と、途上国の子どもたちが住む星がどこかを尋ねる。

C: どちらも同じ地球に住んでいると答えた。

手立て1「世界に目を向けさせる工夫」についての考察

- 視覚で途上国の子どもの様子をとらえ、自分たちの生活やほしいものと比較することで、世界にも目を向け、途上国の子どもたちも、自分たちも同じ地球の上で生きていることを再認識していた。

- (2) 同じ地球人として、世界平和のために、これからどんなことをしていきたいか考え、ワークシートに書く。

T: 同じ地球人として、これから何かしていきたいことがあるかどうか尋ねる。

C: 全員が「ある」と答え、黙々とワークシートにそのことを書き込む。

手立て3「平和な世界を築くために、日常生活の中で自分にもできることを見つけようとする態度を育てる工夫」についての考察

- 途上国の子どもたちの物質的に恵まれない生活と、自分の生活を比べ、それを見直した考えが多く書かれていた。
- 今まで何気なく行ってきた募金も、これからは今日学習したことを意識して、必ず募金したいと書いた児童が多数いた。

困っている人を助けたい

食 牛乳の水を分けたい
食 牛乳の水を分けたい

は金とさけり

子どもたちのこれから心がけたいこと

5. 本時を振り返る。

今日の授業で感じたこと、気づいたことなど、感想を交流する。

わたしは、お母さんとお父さんに
よくあやましました。

良べ牛切が分たりない
なしてかわいそう。

今日、世界には金・物やほも空がなくて困
る人達がいます。私達はそれより必要物
を、そのために、金やモノ・ゲームやCD、DVDが
ほしいというのはせつなくていいかなあと思
います。

あたりまえか"と思っていた食事など
金土曜のくいとしては、いきにくく上びて
しまったというところがめづかしい。

本時全体を通しての子どもたちの感想

T：最後に、途上国の子どもたちもまた、家族や友達を大切に思う気持ちに変わりがないということ、途上国の子どもたちが物質的に恵まれていないからといって決して不幸ということではないということを確認し、本時のまとめをした。